

大腸癌研究会プロジェクト研究

「MRI 診断能に関する研究」委員会 第 11 回議事録

研究代表者 川合一茂(東京大学腫瘍外科)

日時 第 97 回大腸癌研究会・2022 年 7 月 7 日(木)10:15～10:45

場所 浜松町コンベンションホール 5F メインホール ※ハイブリッド方式

出席者：伊勢一郎、岩佐陽介、岩本哲好、岩本博光、上田和毅、上野剛平、上原圭、大内晶、小川真平、梶原由規、川村純一郎、川本祐輔、清松知充、幸田圭史、小林沙代、小林龍太郎、小森康司、小山文一、坂本一博、山東雅紀、杉本起一、須藤剛、須並英二、諏訪雄亮、高島順平、出嶋皓、富樫一智、豊島明、西川武司、濱田円、肥田侯矢、深瀬正彦、増田昌人、松田圭二、松山貴俊、三浦卓也、森川充洋、矢野琢也、山内慎一、吉敷智和

事務局：尾崎公輔、川合一茂

【50 音順】

【敬称略】

議題 1. 前回議事録確認

前回委員会の議事録を確認した。

議題 2. Step1 付随研究 AI を用いた MRI 画像による側方転移診断の研究・東京大学

事務局尾崎より、AI による側方リンパ節転移診断の解析結果、現在論文投稿中であることが報告された。前治療のある症例では、前治療前の画像を用いたモデル、治療後の画像を用いたモデルの 2 種を作成し、結果を比較したところ、治療後のモデルで特に c-index 0.963 と非常に良好な診断能が得られた。

議題 3. Step1 付随研究 CT と MRI のリンパ節存在診断能の比較・名古屋大学

名古屋大学小林先生より進捗が報告された。側方リンパ節の最大短径と、転移の有無を 1mm スライス CT、3mm スライス MRI にて診断能の比較検討を行い、陽性的中率、偽陰性率ともに同等であった。ROC 曲線を作成したところ、MRI では AUC0.93、CT では AUC0.903 とともに精度を高く転移の有無を診断できるとの結果が提示された。現在論文化

を行っている旨報告された。

議題 4. Step1 附随研究 予後解析・静岡県立がんセンター

事務局川合より、静岡県立がんセンターにて Step1 予後情報につき論文化を行っていることが報告された。209 例中、8 例で側方リンパ節再発をきたし、再発領域としては、郭清範囲外(総腸骨動脈領域)、もしくは#263D の辺縁からの再発であった。また、術前画像から再発リンパ節の同定は困難であった。

議題 5. Step1 附随研究 EMVI と側方リンパ節転移の関係・静岡県立がんセンター

事務局川合より、静岡県立がんセンターから、原発巣の EMVI の程度と、側方リンパ節転移の相関について検討したいとのご提案があった旨報告された。特に反対意見なく、附随研究として論文化を目指すことが決定した。

質疑内容・意見

・EMVI の局在と側方リンパ節転移の関係が分かれば非常に良い。また間膜リンパ節転移の因子と EMVI のどちらがより側方転移と相関するのかも解析して頂きたいとご意見いただいた。(京都大学・肥田先生)

議題 6. Step2 症例登録状況

事務局担当医師尾崎より、Step2 症例登録状況が報告された。目標症例数 122 例に対し現在登録症例数 85 例である。

議題 7. その他

特記事項なし。